

若者よ、起業を目指せ…！ 利根沼田の先輩からのメッセージ！

ZOOM UP

仲間とともに有機野菜生産グループ「野菜くらぶ」を起ち上げ、「グリーンリーフ（株）」は野菜の生産の他、コンニャク製品、漬物、冷凍冷蔵野菜の加工品製造を行い、大手企業への流通、販売、ネット販売、海外輸出など販路を広げている。モスバーガーを展開するモスフードサービスとの共同出資会社も展開し、全国で名が知られる企業となり、グループ全体で年間35億5000万円を売り上げている。日々、新たな挑戦を続けている代表取締役・澤浦彰治氏にお話を伺った。

Q 事業拡大のきっかけは？

父が創業した農家の二代目として就農。有機コンニャクやレタス、白菜、ブロッコリー等を生産していましたが、そこで危機的状況になったことがきっかけです。昭和の終わりのウルグアイラウンド（多角的貿易交渉）でコメや牛肉、オレンジの自由化の通商交渉の為、農産物の価格が暴落。大切に育ててきた野菜の価格下落を目の当たりにし、「自分で野菜の価格を決めるべきだ」と、平成4年に自ら販路を開拓する「野菜くらぶ」を起ち上げたのです。

平成元年にはコンニャクの加工を始め、知人や様々な方とのご縁によって少しずつ口コミで取引が広がっていききました。

現在では、有機栽培のコンニャクが人気を呼び、全国各地を超え、ヨーロッパまで販売が広がっています。

Q その後の事業の転機は？

レタスの生産が増えてきた頃、「モス」が有機栽培農家を探している」とい



株式会社野菜くらぶ

代表取締役 澤浦 彰治氏

1964年4月13日昭和村生まれ(株)野菜くらぶ、グリーンリーフ(株)、(株)四季菜、(株)モスファーム・サングレイス、バイオエナジー(株)の代表取締役、(株)マルタ、沼田FM放送(株)の取締役、群馬中小企業家同友会代表理事をつとめる

う新聞記事を見て飛び込み営業し、取引がスタートしました。最初はトマト21ケースから始まりましたが、後に起きた天災時、他の取引先から野菜が入らず困っていると聞き、あちこち駆け回って足りない野菜をすべて揃えたことから信頼を得、レタスやキャベツ等の野菜まで幅広く出荷することになりました。今考える

とこれも大きな転機。

その後も信

頼関係は深ま

り、共同出資

の株式会社モ

スファーム・

サングレイス

の設立に繋

がっていきま

した。また、

モスフードの

社員研修を受

け入れる等、

社員間の交流

も深めていま

す。



Q 現在の状況と、今後について教えてください。

加工場の隣に社内託児所を開園して以来、結婚、妊娠、出産後も働き続けるようになる女性社員が増えました。親の背中を見て育った子どもは、将来働くことへの意欲が増すと思います。今後も、女性社員の活躍を積極的に応援したいと考えています。現在は、太田市での農場開拓を計画していますが、それは昭和村とは全く違う環境での新たな農業への挑戦です。決して目先の利益を追求することだけに留まらず、将来に向けて挑戦し続けなければならないと思っています。加工野菜をローソン、らでいっしゅばーや、パルシステムに納入していますが拡大していきたいですね。



Q 最後に、利根沼田の若者へ向けてのメッセージをお願い致します。

物質的に貧しいことは決して恥ずかしいことではありません。人をねたんだり、人の責任にする等、心が貧しくなることが恥ずかしいことです。何よりも「心の豊かさ」を大事にしてほしいと思います。周囲の幸せを願い、誰かを喜ばせるといことは必ず自分の幸せ、自分の喜びにつながります。必ず叶うと信じ、リスクを恐れず夢に向かって果敢にチャレンジしてください。